

であるく防災

芹彦橋根

■ 自転車

■ シニアカー

×

■ 防災

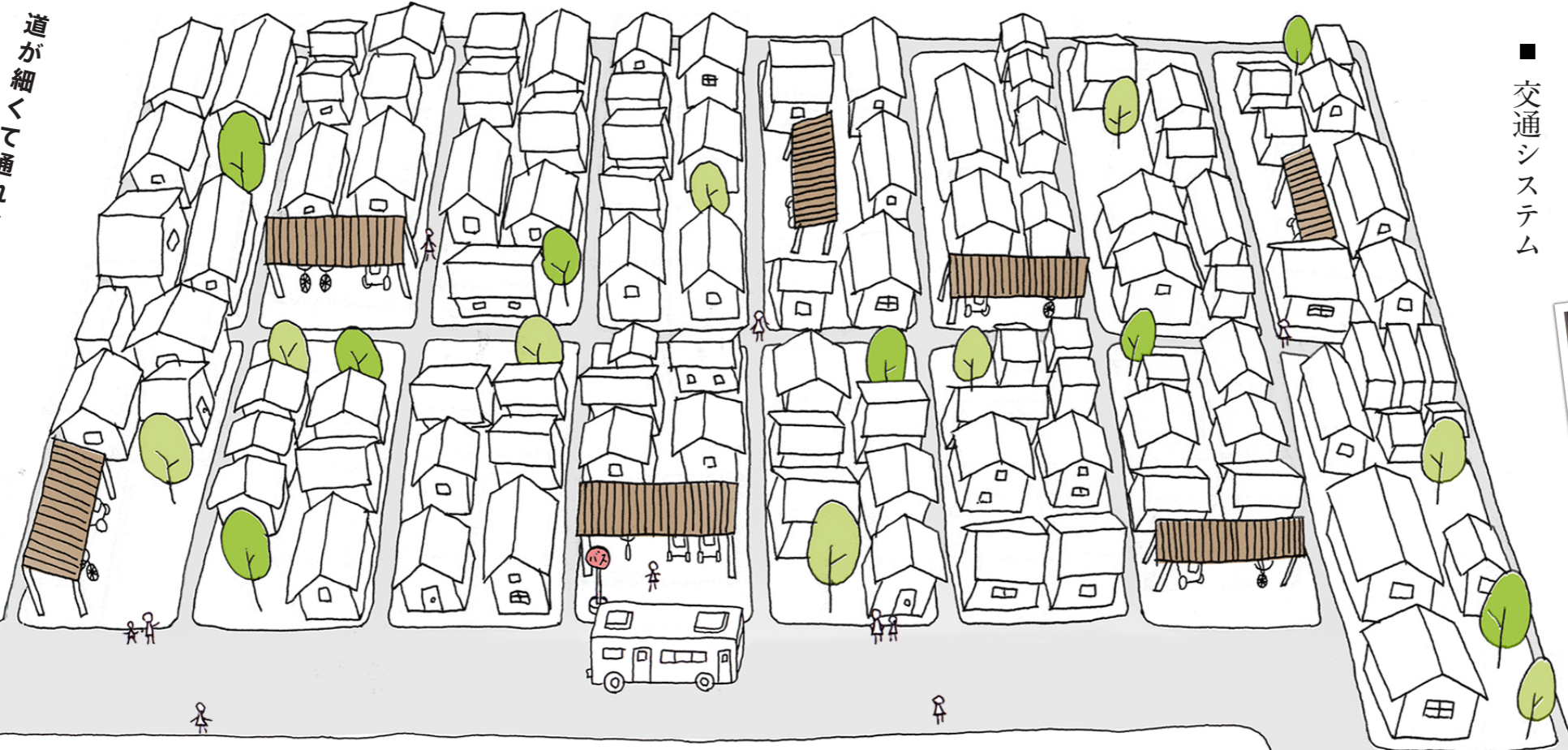
■ 交通システム



道が細くて通れない!!



街のみんなが消防士!

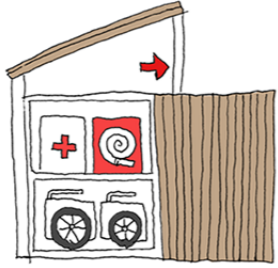
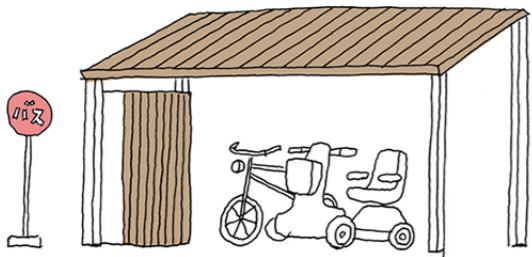


提案内容 ▼

この地域の問題を改善するためには、高齢者が、外出しやすい、安心して暮らせるまちにリノベーションすることが求められている。そもそも、細街路に囲まれた木密地域では、軽自動車では

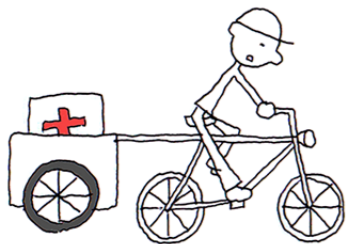
なくシニアカーのサイズが適している。また、昨今の自転車ブームによる道路空間の見直しと、公共交通の再構築の流れをふまえて、従来の都市計画とは異なるオルタナティブな将来像を模索していきたい。そこで、今回の提案では、

木密地域そのものを一つの「まち」としてとらえ、防災性を維持しつつ、高齢者はシニアカー、若者は自転車に乗ってであるくために、街路のリノベーションをはかる。



ステーションの設置 ▲

- エリアごとにステーションを設置し、折りたたみ式リヤカー+消火キット+緊急医療キット(担架など)を配備する。
- 高齢者はシニアカー、若者は自転車でリヤカーを連結する。
- リヤカーでは重い荷物などを牽引することができ、災害時には消火キットや緊急医療キットなどを運ぶ。



リヤカーで救急医療キットを運ぶ

モビリティ・マネジメントの実施 ▼

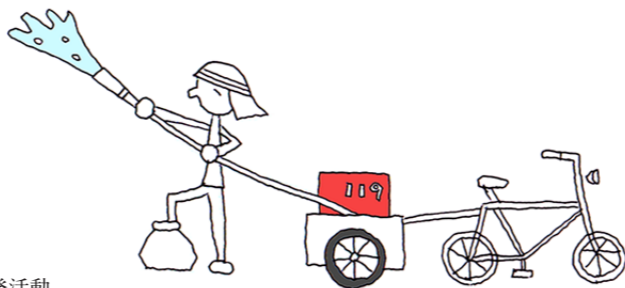
- 転入者、移住者に対するモビリティ・マネジメント教育
 - ・シニアカーの駐車場・バス、電車との結節の情報提供
 - ・クルマをなるべく地域に持ち込まないようにするための啓発活動
- ステーションを軸とした、消火・救助訓練、消防団活動

移動システムの再構築 ▼

- シニアカーと自転車の共存できる街路空間の見直しをはかる
- サイン・標識の作成: 老人注意・シニアカー徐行など



リヤカーで重い荷物を運ぶ



リヤカーで消火キットを運ぶ



対象地域

滋賀県彦根市は井伊家35万石の城下町でもある。この城下町の風情を色濃く残している地域の一つに、芹橋一丁目および二丁目がある。彦根城の外堀と芹川に挟まれた場所に位置しており、この地域の特徴は、道路幅員が一間半(2.7m)の細街路であり、要所に「どんつき」や「くいちがいがい」を配した足軽衆の組屋敷が連なった都市構造がほぼ完全に残されている。

高齢化

芹橋地域は、市内でも高齢化が進んでいる地域であり、高齢化率27.8%(彦根市20.3%)である。つまり、細街路や裏路地の先に、高齢者が多く住んでいる。

交通弱者

この地域は、タクシーやクルマが容易に通ることができる地域ではないうえに、駐車場も限られている。さらに、周囲を走る路線バスは減便、路線変更など不便を余儀なくされている。クルマを持たない高齢者にとっては、移動支援が必要となっている。

防災性

木密地域であるため、特に、防災に対する意識は高く、堤防脇水路、井戸の活用の計画や空き地や小道の確保などが検討されてきた。しかし、現実的には、消防車が入れないため、ホースをつないで消火せざるをえない状況が続いている。